

ササ類の分布と効果的な
駆除方法の違い

森林管理を行う上で、ササ類は植栽苗木や稚樹を被陰し成長を阻害するため、多大な労力を掛けて駆除する対象です。ササ類の分布は積雪深に依存し、50cm以下にはスズタケが、50～150cmにはクマイザサが分布します。ここでは、これら2種の駆除方法を紹介します。

スズタケは全国的にシカの分布とほぼ重なり、以前からシカの食害によって群落単位で衰退が始まっています。これまでにスズタケはほぼ全域で開花・枯死しました。現在、再生途上にありますが、実生は増加傾向にあるシカに食べられ、スズタケの生育は上手く進んでいません。スズタケは上木の伐採や被食などの攪乱に弱いため、伐採後の刈払いで十分に駆除できると考えられます。

一方、クマイザサは明るい場所での刈払いに対する回復力が強いいため、駆除に苦勞します。上木の伐採により林床が明るくなるとクマイザサは急速に繁茂します。通常は、植栽後の下刈り作業のタイミングで駆除を開始しますが、これだとササの旺盛な成長に勝てず、林床はササで覆われてしまいます。そこで、伐採と駆除の順番を入れ替えて、伐採前に林床のクマイザサの刈払いを行いました。その結果4年間繰り返して刈払いしたところ、ヒノキ林ではクマイザサを完全に駆除することができました

(写真)。明るい落葉樹林でも貯蔵養分を地下部に下ろす直前、8月後半から9月と刈払い時期を限定すれば、同様の効果が得られる可能性があります。



上木の伐採前にクマイザサの完全駆除に成功した事例

ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。